

※ 本業務は株式会社サンケイ会館へ委託しています。

2022年2月25日

「国際会議主催者セミナー」アーカイブ映像公開のお知らせ

JNTO では、国際会議を主催する皆様に、会議の誘致や開催のノウハウを提供させていただくために、「国際会議主催者セミナー」を開催しました。当日ご参加いただけなかった方のために、HP 上にて1年間アーカイブ映像を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

【概要】

公開期間：2023年3月31日（金）まで

視聴方法：以下のURLよりご覧ください。

<https://mice.jnto.go.jp/organizer-support/support-seminar.html>

※セミナーのアンケートを通じて、参加者の皆様から寄せられた質問に対する回答を3月下旬にHPにて公開予定です。併せてご覧ください。

【セミナー内容】

①「国際会議開催の推進～世界で光り輝く広島大学を目指して～」

コロナ禍が長引く中、国際会議のあり方も大きな転換点を迎えております。しかし、本学の長期ビジョンである「SPLENDOR PLAN 2017」で示された「100年後にも世界で光り輝く大学」を目指す上で、国際会議開催の重要性に対する本学の認識に変わりはありません。本講演では、本学における推進の取り組みにつき、「学内の支援」「教員活動の把握」「社会産学連携」の三つの観点からその概要を紹介いたします。また、国際会議開催の課題と展望につき、自らの会議主催経験も踏まえて、私見を述べさせていただきます。



越智 光夫 氏

広島大学 学長

膝関節外科を専門とし、スポーツ外傷による靭帯再建や軟骨損傷治療に取り組む。2015年に「紫綬褒章」を受章、2017年より日本学術会議会員、2021年より文部科学省の科学技術・学術審議会委員ならびに中央教育審議会委員。国際的学会に200回を超える招待を受け、国内外の医学界への影響力は大きい。広島大学は、国際会議を開催する教職員に対して助成支援を実施しており、国際会議誘致・開催に積極的な立場をとっている。

②「第17回世界地震工学会議（17WCEE）をハイブリッド開催して学んだこと」

第17回世界地震工学会議（17WCEE）を仙台市で2021年9月26日～10月2日の期間、ハイブリッド形式で開催しました。WCEEは1906年のサンフランシスコ地震50周年を契機に1956年にその第1回が米国で開催されて以降、4年に1度開催される地震工学分野最大の国際会議で、日本開催は33年ぶり3回目です。本来17WCEEは昨年9月開催予定で準備を進めて来ましたが、COVID-19の世界的流行拡大で4月には1年延期を、12月にはハイブリッド形式への変更を決断し、感染症対策や発表形式で様々な工夫しながら開催にこぎつけました。今後ハイブリッド開催の事例が増えると思われ、我々の経験や工夫事例を紹介することで、皆さんの参考になれば幸いです。



中埜 良昭 氏

東京大学生産技術研究所 教授

建築耐震構造学を専門とし、2011年東日本大震災、2011年ニュージーランド・クライストチャーチ地震、2008年中国 四川地震、2005年パキスタン・カシミール地震など内外の被害地震において、調査団団長や幹事として地震被害調査と復旧支援の指導にあたる。東京大学生産技術研究所長、世界地震工学会副会長、日本地震工学会長などを歴任。2016年から第17回世界地震工学会議（17WCEE）の誘致に携わり、本年、同会議を副委員長として成功に導いた。

<お問合せ先>

JNTO MICE プロモーション部 誘致推進グループ

担当：野村・河横・西込

TEL：03-5369-6015

E-Mail：conference_ambassador@jnto.go.jp